



アイヌ語で
「広場」の意味

ポイヤウンペの戦い ⑦

「金成マツ版 虎杖丸」から 文：瀧口夕美 絵：小笠原小夜

すがた か てき なか 姿変え 敵の中へ



村には貧しいフチ（おばあさん）が住む、かたむきかけた古い家があった。私、ポイヤウンペはその家に入り、ボロ服を着てフチに化けていた。やがてこの村の勇者・ニソルンサンタの使いがやって来て、こう言った。「カムイノミ（おいのり）をするので来て下さい。聞きたいことがあります」

フチの姿でニソルンサンタの家に行くと、たくさんの人がいた。彼は「ポイヤウンペがあちこちで私の同族を殺している。あいつは『化け物つき』と呼ばれているが、その姿を見た者はいない。長生きしたあなたなら見たことがあるのでは？」と聞いてきた。私は心の中でおもしろがりながらこう言った。「私以外に見たものはないだろう。おそろしさでわが身がとけそうだ」

ニソルンサンタは「ポイヤウンペはどこにいるんだ。占ってくれ」と、そばにいた若いアトウイヤ姫に言った。姫は火のそばにすわり、着物の胸の部分の内側から小さな金のレプニ（拍子をとるためのぼう）を取り出し、すばらしい声でシノツチャ

（歌）を始めた。

その時、私はアトウイヤ姫の真上のはりの上に、ニサッタスム姫が座っているのに気づいた。私のつき神の力と、ニサッタスム姫の霊力で、アトウイヤ姫はうまく占うことができない。それでもやがて「ぼんやりと、能力のあるカムイが、女と話しているのが見えます。さらに、この場で人びとが走りまわり、ものが巻き上がり、とんでもない魔人がいるのが見えます。悪いことの前ぶれです」と言った。

今度はエサンノッ姫が占い、「その2

人とは、ポイヤウンペとニサッタスム姫です。姫は柱にしばられているまぼろしを見せ、みんなをだましています」とつけた。ニソルンサンタはとてもおどろき、「妹め、ふざけた心を起こして！ 殺してしまうぞ」とどなった。

ニソルンサンタはしつこく「フチ、化け物のまねをしてくれ」と言ってきた。私は「そんなことをすれば、この村の誰も助からないぞ」と返したが、相手は笑って「そんなことはない。さあフチ、ちょっとだけ」と引かない。ならば、と私はよつんばいになってあちらこちらへはね回ると、周りにいくつもの投げ縄が見えはじめた。人びとは不思議な景色に手をたたき、歓声をあげた。私はかけ声とともに、次第に強くとびはねた。そのうち、はるか遠くの山からカムイたちが出てくる音がして、すぐそばにおりてきた。



これまでの話は「まなぶんデジタル」=QRコード=で読めます

